

目黒稲門会会報



(題字：眞仁田 勉 初代会長)

第89号 2020年12月

発行人：後藤 克彦 編集長：猪名川 一雄 事務局長：吉野 博明
事務局：〒153-0053 目黒区五本木2-22-6 Tel 03-3713-1684

2021 新年会、4月以降に延期

本年3月より新型コロナ禍に対する校友会の要請を受けて、当会は、対面活動を停止してきましたが書面およびオンライン他様々な工夫で会員相互のコミュニケーションを図ってきました。

11月役員会より書面+オンライン方式に、10月以降の俳句部会は投句方式に切り替え、また、美術・歴史鑑賞部会およびスポーツ観戦部会は個人ベースの観賞、観戦を支援する情報提供を行い、10月以降のウォーキング部会についてはオンラインでの情報交換会を始めています。

10月13日付で校友会から来年1月以降の活動について次の事項を骨子とする「自粛の段階的な緩和」要請がありました。

1. 国や自治体の指針を厳守、充分注意の上実施、
2. 少人数であっても三密を避け、マスク・消毒・検温などの対策実施を徹底、
3. 高齢者が多いので、充分注意すること、
4. 感染対策徹底が困難な場合は、3月末まで活動を控える。

来年1月以降3月までの当会の例年の行事としては部会活動の他、新年会および東京都23区支部大会があります。

新年会についての執行部での提案は、

1. 10月13日付校友会要請を遵守、
2. 大学、校友会来賓、現役学生の不参加、
3. 開催する場合の会場は、本年総会で使用予定だったアイビーホールとし、三密条件等をクリアする収容人数、
4. 新年会費用と参加者会費

等を考慮し、『新年会を来年4月以降に見送る』提案を11月役員会に掛け、了承されました。

大学と校友会の要請に従い不屈の精神で辛抱すべきは辛抱し、終息の暁には会員が挙って再会し大いに喜びを分かち合い親睦交流と本会活動を復活させましょう。なお、支部大会については同幹事会で検討中で決定次第ご連絡します。

(吉野 記)

俳句部会～10月より投句方式で再開～

第126回「俳句部会報告」(郵送句会)

日時 2020年10月12日(月)

(順不同)

| | |
|--------|------------------|
| 川井素山 | 静洗ふ漢見送る帰燕かな |
| 保井寶正 | ひぐらしを聞きて寂寥生家あり |
| 佐久間喬 | コロナ禍のさりげなきごと虫すだく |
| 丸山酔宵子 | 威銃浅間の煙揺らめいて |
| 吉田啓悟 | 霧深し記憶の海に舟を出す |
| 青木英林 | 名月や諍ふ声も聞ゆる夜 |
| 山本草風 | 生きし今万感胸の良夜かな |
| 渡辺鯨波 | 口げんか一休みして大花野 |
| 後藤克彦 | 村境赤で線引く彼岸花 |
| 永井正孝 | 凌霄や垣を乗り越へ滝と化す |
| 佐久間たか子 | 歎異抄の声に出したる秋彼岸 |
| 原 晶如 | 見下ろせるダム湖に間遠威銃 |
| 金森純女 | 威し銃気にせぬ猿の飛び歩く |
| 青葉ひかる | 金木犀大なる言葉に漂いて |

中原主宰の短評：

「静洗う漢見送る帰燕かな」

あ、もう燕の帰るころか・・・と俳句でもやってないとそういう自然の推移に気がつかないかもしれない。

「威銃浅間の煙揺らめいて」

全く威銃とは無関係なのだが・・・リンクするところが面白いが浅間から誰の句だと判りそうなもの。

「霧深し記憶の海に舟を出す」

カッコイイ句だなあ・・・舟を出して戻りだけなのにヘミングウェイの「老人と海」的な物語も思われる。

句会もコロナ禍の影響を受け、3月より自粛していましたが、中原主宰の了承を得てこの度、「郵送句会」として再開しました。会員から4句の投句をしてもらい、句の作者が判らないようバラバラ(無記名)にして、主宰に郵送し、主宰は短評を加えて返送されました。初めての試みなのでやり取りに時間がかかりましたが、今後改善していきます。

俳句部会長 佐久間 喬

会員の広場

一里塚

服部尚彦（昭和35年 理工）

人生の中の身の回りの集まりで、その節目に居合わせる機会があることは、集まりの一里塚でもあり、また自分自身の一里塚となったとも感じられます。

またその際には特別な祝い事があり、より思い出深い記憶として残るものです。

私も幸いにも大学関係で幾つかの大きな節目に出会う機会があり、思い返すと良い巡り合わせにあったと感慨深く思っています。調べて見ると次の諸事がありました。

- 早稲田大学創立125周年記念式典、2007年10月21日
- EWE 電気系3学科100周年合同大同窓会（理工学部新63号館）、2008年11月9日
- 目黒稲門会設立10周年定時総会、部会パネル展など（駒場エミナース）、2009年7月12日
- 理工学部創設100周年記念式典（大隈講堂、リーガロイヤル）、2009年11月9日
- EWE 早稲田電気工学会創設100周年記念式典（大隈講堂、リーガロイヤル）、2012年11月24日
- 目黒稲門会設立20周年定時総会、2019年7月7日
- 目黒稲門会設立20周年記念会員作品展（目黒美術館区民ギャラリー）、2020年2月4日～9日

巡り会った数々の時の目地を思い起こすと、準備段階からのお手伝いをさせて頂いたものもあり強い思い出が蘇ります。

この中の一つのトピックスとして、最終学年の時に「理工学部創設75周年」を期して「理工展」の祝賀企画準備委員会が立ち上げられ、理工学部全学科のまとめ役を仰せ遣りました。

準備は早い段階から進められ、ノーベル賞受賞者であられた朝永振一郎先生の講演、当時注目された科学映画「砂漠は生きている」「ミクロの世界」映写会などの企画案の実行準備に入りました。

ところが、直前になって大学側から東京専門学校から始まる大学史の精査検討の結果、75周年は翌年にすると調査結果が通知されました。

準備万端でしたが、創設75周年記念展の看板は幻となり、また「理工展」の実施全体に関わる事なので中止も議論されましたが、早稲田祭実行委員会から「理工展」は中止しないで開催して欲しいとの強い要望が学部長に寄せられた結果、理工学部校舎内での通常展と大隈候銅像の後ろ正面の共通校舎を使用する講演会と映画会は実施することが決定さ

れました。当時は革マル派が割拠している時代であったので、威圧的に取り囲まれ、ビラを張らせろとの恐喝などもありましたが跳ね除けて、全てが計画通り成功裏に終わることが出来ました。

また、私にとって特に印象深い一つは、「理工学部創設100周年」という大きな祝事でした。目黒稲門会の同学部出身の諸先輩、後輩の方々共々、この特別な一里塚を心から祝いました。

同じ時期に、「EWE 電気系3学科100周年合同大同窓会」が初めて企画され、実行委員として準備、実行をお手伝いし、3学科全年次の卒業生に周知し、西早稲田大学キャンパスで先生、先輩、後輩方と歓談できたことは嬉しい事でした。

我が目黒稲門会では、「設立10周年」、更に「設立20周年」の歴史的時節を迎える事が出来、それぞれに多彩な企画をもって、会員皆で母校と会の発展、会員の健勝を祝えました。

最近では、この20周年祝賀行事の一環として、目黒美術館で開催された初めての「目黒稲門会設立20周年会員作品展」は、この祝いに大輪を添えました。会員、家族会員からの幅広い分野の素晴らしい作品群がところ狭しと披露され、多くの観賞者にも恵まれ、文化分野でも目黒稲門会の懐の広さが心の底に響きました。

一里塚、マイルストーンとも言われますが、人生の流れの中で意義のある時代の節目に巡り合わせる機会を得られたことに、今幸せを感じております。

祐天寺

市川 亘（昭和51年 商）

5月21日は近くの名刹祐天寺に行きました。

1Fの部屋では女房がZoomで生徒に講義。2Fは息子がZoomで就活面接。狭い我が家では私の居場所がありません。そこで近くの名所祐天寺に行ってみました。

祐天寺は増上寺の大僧正であつた祐天上人を祀つてある名刹です。祐天上人と言えば、修行僧のうちに、お菊という娘に累の霊が取り憑き、その霊を悪戦苦闘の末成仏させた話で有名です。怪談累ヶ淵として歌舞伎の演目にもなりました。



境内は上品で広く、表門を過ぎると立派な仁王門があります。その右横に歌舞伎役者が奉納した累の碑

「かさね塚」があります。この演目を演ずる前に必ずこの塚を参拝するそうです。



仁王門をくぐると右手には鐘楼があり、左手には素敵な阿弥陀堂があります。そして正面には本堂があり、この本堂左手の仏舎利殿の壁には祐天上人と累が描かれた巨大な絵馬があります。



祐天寺でもう一つ注目する点は大正天皇の生母である柳原愛子の墓があることです。大正天皇は女官との間にできた子なのです。当時も皇統断絶の危機があったのですが、女官の柳原愛子が、その危機を救ったのです。因みにこの柳原愛子の姪が、大正の三大美人の一人であり、歌人の柳原白蓮です。



身近な名所名跡を訪ねてみるのもいいものですね。ここで一句。

いにしえを身近に巡る初夏の午後(市川真至)

コロナに負けない体力作り-1日1万歩の散歩 目黒在区の大使館巡り

後藤克彦 (昭和42年 文)

馬頭観音巡りを終えて、1日1万歩散歩を続けるための次の目標を見つけることにした。目黒区HPを調べると区内に13ヶ所の大使館があると紹介されていた。馬頭観音の13ヶ所との数字合わせに刺激されて出発を決意。ちなみに世界の国数は196カ国。在日外国大使館数は155カ国もある。目黒区では13ヶ国の内の9カ国はアフリカ諸国と多いのに驚いた。なかなか自分一人では行けそうも無く、あまり耳にすることの少ない国であることに興味が膨らんできた。もちろんパスポートや着替えのためのトランクの必要も無しの世界旅行へ。必要な持ち物はマスクと水筒のみ。

5月26日午後2時出発でアフリカ大陸にあるスーダン共和国。大使館は八雲にあり、近くにはトーゴ共和国がある。トーゴ共和国は西アフリカにあり、奴隷海岸が有名。首都のロメは国境に位置する珍しい国。国土は日本の七分の一の小国で世界最貧国の一つとなっている。続いて野生動物の宝庫ケニア共和国。27日午前10時に目黒稲門会 Zoom 参加後に東が丘にあるアゼルバイジャン共和国へ。カスピ海



に面した国。すぐ近くには中部アフリカにあるガボン共和国。奴隷貿易、象牙の集散地で有名。国土の80%以上は森林で象、ゴリラ、チンパンジー等の大型哺乳類多数生息。産油国で国民所得高い。28日午前11時過ぎに下目黒にあるネパール連

邦民主共和国とパプアニューギニア独立国。南太平洋の亜熱帯雨林で周辺の島々約600からなる立憲君主制国家。元首は英国エリザベス2世女王。10分歩いてジブチ共和国へ。ジブチ共和国は北東部アフリカにあり、日本の自衛隊の初めての海外拠点。地上で最も暑い国。年間平均34.5度で最高50度。その日は品川区へ大使館ごと引越し中。すぐに五本木の路地を入ったところにあるモーリタニア・イスラム共和国へ。29日午後4時過ぎに三田にあるエキゾチックな門構えのアルジェリア民主人民共和国とポーランド共和国へ。31日午前11時に青葉台にあるエジプト・アラブ共和国とパリ・ダカールラリーで有名なセネガル共和国へ。暑さに負けずに13カ国の大使館巡りを無事に終えて帰宅した。1日平均1万歩! 世界は広い!

千代田フィルハーモニーと私

林田雅敏（昭和31年 商）

千代田フィルは、学生、社会人などの現役、OB、OGが集まって音楽を演奏し楽しむアマチュアの団体である。毎年春の定期、サマーコンサート、日曜青年教室音楽鑑賞会、千代田区オーケストラ・フェスティバル、秋（または冬）の定期と5回の演奏会を行っている。団員は常時50～60名が活躍している。現在、ワセオケOB、OGは私を含めてホルン1名、バイオリン2名の計3名が毎回ステージに乗っている。現在、千代田周辺の施設・生涯学習館の練習場集まって練習、指揮者は定まっておらず、主にプロの方をお願いしている。

1979年のある日、青年交響楽団（私が高校生の時入団していた）創設者の緒方孝太郎氏から、新しく千代田フィルを作ったが団員が集まらず困っている、千代田フィルに入団しろ、『枯れ木に山のにぎわい』とついに承諾させられてしまった。会社は早大卒業後入社して20数年、丁度油がのってきたところで最初はまごついた。火曜日が練習日で会社に楽器を持って行き、残業を付き合いわずに練習に出席した。

練習に出ると確かにバイオリンは4、5人、管楽器も少ない。ワセオケは私を含めて4人。それでも本番近くになるとなんとか人数は揃った。

1978年2月20日、第1回定期演奏会、旧第一生命ホールで開催。指揮／中山富士雄（東京芸大教授）、モーツァルト「歌劇・魔笛序曲」、「交響曲第40番ト短調」他、J. シュトラウスⅡ「ワルツポルカ」各2曲。指揮者は弦に弓を軽く乗せて弾くと、N響のスイトナーの弦の軽快なそして甘い音を要求されていたが、我々は何と心細い貧弱な音しか出なかった。

1982年12月4日、第10回定期演奏会、千代田公会堂で開催。指揮／山岸宣公、ピアノ独奏／井上ゆり子、ムソルグスキー「歌劇・ホヴァンシチナ前奏曲」、モーツァルト「ピアノ協奏曲第24番ハ短調」、リムスキー＝コルサコフ「交響組曲・シェヘラザード」。このホヴァンシチナ前奏曲ですが私が高校2年の時、前出の交響楽団で指揮者の小船幸次郎氏に演奏したいと頼んだのですがパート譜があれば指揮しますとおっしゃったので私がポケットスコアから全楽器用のパート譜を写譜して演奏した。後日（20年位後）別のオーケストラでこの曲を弾いた時、私が写譜した譜面なのでびっくり、そのオーケストラの担当者が民音図書館から借りたそうで、どうしてこの譜が民音にあるのか不思議だ。

1985年4月6日、虎ノ門ホールで開催。千代田フィル初めてのベートーベン第9交響曲の演奏会「教育文化のまち千代田区宣言」1周年記念、指揮

／山岸宣公、合唱指揮／辻正行。辻正行さんはなかなか面白い人で、両国メモリアルホールで1千人の第九合唱指揮をした人です。この時、合唱には色々な人が参加し、芸者さんも置屋の娘さん（外語大出身）がドイツ語を日本の言葉に置換えて「freudeは風呂いで」等々として暗記してもらい合唱団を楽しく指導していた。

1989年7月8日、千代田公会堂で開催のサマーコンサートではジャズ・クラリネットの名手、北村英治氏がモーツァルト「クラリネット協奏曲イ短調第1楽章」とジャズ・スタンダードナンバーから4曲をジャムセッションスタイルでドラムと当団のピアニストで演奏、盛り上がった。

1990年7月7日、千代田公会堂で開催のサマーコンサートから「1分間指揮者体験コーナー・・・あなたもメイ指揮者?!」を始め、4、5人を抽選で選び子供から大人まで楽しんでいる。

1997年4月13日、創立20周年記念演奏会、東京国際フォーラム・ホールCで開催。指揮／山岸宣公。ハーブ2台、新日本フィルハーモニーから特殊楽器を借りて盛大に行いました。当団の技術も向上しました。創立20周年記念演奏会の前より井上正澄団長より半澤義信団長に代わりました。半澤氏は建築家で美術館・劇場や古い寺社等の修復が専門で出張が多くサポート役として私が副団長を勤めることになった。

2002年4月13日、第38回定期演奏会（創立25周年記念演奏会）では初めて紀尾井ホールで演奏。良いホールは音も良く響き、演奏者にも各楽器の音が良く聴こえます。横島勝人指揮、シューベルト「交響曲第5番変ロ長調」、マーラー「交響曲第1番ニ長調巨人」。84人もがステージに乗り、ホールの人に、床が抜けてしまいますと注意された。

2016年3月15日、千代田フィルは千代田区文化功労団体として区から表彰された。

2018年11月25日、第67回定期演奏会、紀尾井ホールで開催。指揮／和田一樹、ボロディン「交響詩中央アジアの高原にて」他。「中央アジアの高原にて」では各楽器がああ有名なメロディーを受け渡して行くが音程そしてタテ、ヨコの線がともに合い素晴らしい出来となった

2019年3月31日、定期演奏会、紀尾井ホールで開催。指揮／和久井仁、バイオリン独奏／相川麻里子、ブラームス「悲劇的序曲」、ブルッフ「バイオリン協奏曲第1番ト短調」、シューマン「交響曲第3番変ホ長調」。和久井氏の指揮にシューマンらしさを出してオーケストラがついていったと言うことはそれだけ進歩したと思えた。

谷戸前川暗渠を歩く

吉田博行（昭和42年 政経）

谷戸前川は、旧東京府荏原郡中目黒村を流れていた目黒川の支流で、流域にある祐天寺の旧字名「谷戸前」（谷戸（やと）とは谷状の地形のこと）にその名が由来していると言われている。

現在、すべてが暗渠になっている谷戸前川を目黒川の合流地点まで辿ってみた。

その水源は定かでないが、五本木・中央町・祐天寺辺りではないかと推測される。かつては清流であったと思われるが、生活環境の変化と下水処理が整備され、埋られたり、暗渠になったりしたと思える。現在、川の痕跡として暗渠で残っている、駒沢通りスーパーサンワの前、祐天寺2丁目交差点付近から細い路地が始まる。交差点の近くの駒沢通りに「さわら庚申」と「古い道標」（写真1）がある。また「さわら庚申」はスーパーサンワ辺りにあったのではないか、この地点に道標がおかれているのは交通の要所であった場所と推測されている。

住宅の間に煉瓦敷の細い路地が続いている。この辺りの生活用水の排水路になっているのだろう。川の跡にしては、意外と真っ直ぐな道が途中何本かのやや広い道路を横切って続いている。暫く行くと祐天寺裏の五差路に出る。この交差点は油面、祐天寺、中町（旧区役所方面）、そして自然園の各方面からの道が交差している。交差点にある交番は、谷戸前交番（現・谷戸前地域安全センター）（写真2）で旧町名の名前が今も残っている。

さらに、住宅の間の細い通路が続き、少し幅の広い道路に出て、暗渠と並行になり、歩道のように車道面より少し高くなる。（写真3）ライオンズマンションを過ぎると、油面方面との道路と合流するあたりに自然園の説明碑文が立っている。碑文の説明によると、この辺り一帯は大正時代に農学者岡見彦蔵が都会生活を健康的に営むためには自然と触れ合う場所が必要と考え、大正4年（1915年）、広さ8300坪ほどの「自然園」を開園。園内はテニスコートやヤギ牧場、イチゴ畑等が作られた。しかし、目黒地域の住宅化の波に押され大正14年（1925年）に閉園となり、今は自然園下のバス停にのみ名前が残っている。

その先は、変形の五差路で、祐天寺から道、登坂で長泉院（現代彫刻美術館）・馬喰坂方面、右へ行くと大塚山に向かって登りになる元競馬場目黒通り方面、油面方面、五つ目の細い道は山裾を回るようにして下り、山手通りに繋がっている。この辺の地形も川の合流地点だったのではないかと想像できる。暗渠は右へ大きく曲がって住宅の間を下って行く。

暗渠を示すアーチ状の柱が目印になる。この曲がり端に「庚申塚」（建立時期は寛政10年頃）がある。説明板がなければ見過ごしてしまうほど風化が激しく、昭和初期、この辺りの谷戸前川で発見され、現在の場所に設置され、傍らに大きな栃木があったので「栃木庚申塚」と名前が付いたとの事。ここからは、現在「谷戸前川遊歩道」となっている。

さらに大塚山の裾に向かって、きれいに整備はされているが、昼でも薄暗い崖下に沿った道を下って行く。崖が崩れないかと不安になる。（写真4）大塚山公園に登る階段を通り過ぎると、住宅の間の左右に花等を植えて整備された小道が続く。四つ角を過ぎ、直角に曲がり、崖の縁であったと思える高い壁が右側にあり、そこを抜けやや広い道路を横切ると、マンションの間となり山手通りにぶつかる。（写真5）山手通りを横切ったあたりから痕跡が分からなくなっている。目黒川に向かって蛇行した道が目黒区民センターのテニスコートの脇を抜け、目黒川に合流しているのではないかと想像できる。意外と歩きやすく変化のある暗渠の遊歩道であった。



図1
散策コース



写真1



写真2



写真3



写真4



写真5

参考文献：

「目黒区ホームページ」抜粋

「東京暗渠散歩」抜粋

「中目黒5丁目町会誌・周辺の史跡について」

四国遍路でのご縁と教え、ご接待の心

安藤 嘉昭（昭和42年 法）

私は、永年、四国八十八箇所の巡拝の夢を持っていました。現役の時長期間にわたる「遍路道」の巡拝は、私にとって叶わぬ夢でした。

定年後、ボランティアにいそしんでいる最中に「何時か訪れたい四国八十八箇所の巡拝」の機会が幸いに、定年三年後に訪れました。

十四泊十五日の巡拝の旅、平成12年11月初旬のツアーに参加。八十八箇所目の医王山大窪寺さんで結願し、最後は高野山までのツアーでした。

大型バスと時にはタクシー、そこそこでの歩きとの山登りを織り交ぜた楽しい旅となりました。

多くの出会った人々から頂いた「ご接待」の旅。

四国遍路の道では、どこでも心温まる「ご接待」を頂きました。私の「お返しを」の言葉に、異口同音に「あなたが次に会った方に」との言葉で、これが遍路で得た「ご接待の心」の素晴らしさでした。

次なる遍路での「ご縁」は、ツアー仲間から帰京後、永年の友となり、20年の間に一人亡くなり、二人亡くなりましたが、今もお付き合いさせて頂いている方々とのエピソードに満ちたご縁です。

最初のエピソードは、高知の宿での「自己紹介」です。私が目黒本町三丁目の住所を自己紹介しますと、同じグループのお年寄の女性が、「もしかして履物店の安藤さん？」と言われ、私の家の裏の本当に二百メートルもないお近くの方で、早稲田に入る前の家業の履物店のお客様でした。

四国の遍路で知る「奇遇」に驚きましたが、これが永年のお付き合いの始まりとなりました。

旅を終え別れの羽田で、同室だった男性三人が「これでお別れは寂しいので、会う機会を作りましょう」例のお年寄り仲間の女性四人をお誘いし、七人の通称「へんろ会」がスタートしました。

その後平成16年に高尾山、17年伊豆箱根、18年は熊野古道が世界遺産になった事で高野山・熊野古道へ、19年那須塩原の旅を楽しみ最近では会食になりましたが、20年間も続く「ご縁」を頂きました。



最後のご縁は、四国霊場第八十八番大窪寺さんで頂いた「結願証」（左下写真）を見て、びっくり！

私事ですが、「結願証」の日付が、頂く迄全く気付かなかった三年前に亡くなった亡母の祥月命日の日の11月20日でした。それもこれも「同行二人」のお大師様から頂いた「縁」ではないか？巡り合わせを演出して頂いたのではないかと感じました。

最後に、四国遍路で記憶に残る「教え」をご紹介します。

それは、四国霊場第二十一番舎心山太龍寺さんで、伺った「教え」です。ご本尊は「虚空蔵菩薩」様で、ご真言は「のうぼう、あきゃしゃ、きゃらばや、おん、ありきゃ、まりぼり、そわか」でした。



コロナ菌の第2波、第3波に付け入るスキを与えない「抵抗力」を付ける、「心と身体の健康づくり」に、いかがでしょうか？

最初は「心の健康」に役立つ

「しあわせ(幸福)がこだまする五つの心」

- 一. 「ハイ」と言う素直な心。
- 二. 「すみません」という反省の心。
- 三. 「おかげさまで」と言う謙虚な心。
- 四. 「させて抱きます」と言う奉仕の心。
- 五. 「有難うございます」という感謝の心。

次に、健康であるため「生活習慣」抵抗力ある体作りのための「健康十訓」です。

- 一. 小肉多菜 肉を少なく、野菜を多く。
- 二. 少塩多酢 塩類少なく、酢を多く。
- 三. 少糖多果 砂糖少なく、果物多く。
- 四. 小食多噛 少なく食べて、よく噛む。
- 五. 少衣多浴 なるべき薄着で、良く風呂に。
- 六. 少言多行 おしゃべりを謹んで、多く実行。
- 七. 少欲多施 欲望抑え、施しを多く。
- 八. 少憂多眠 くよくよせずよく眠る。
- 九. 少車多歩 車に乗らず、よく歩く。
- 十. 少憤多笑 あまり怒らず笑う。

いつかどこかで、お聞きになった事ばかりですが、なかなか、実行となると・・・。

私は、「言うは易し、行うは難し」の心境ですが。

目黒わが町自慢

三田 猪名川一雄（昭和45年 政経）

三田は一丁目と二丁目だけの小さな町だが、歴史は目黒区内で一、二を争うほど古く、大化の改新以前にまで遡るとされている。三田は古くは「屯田」（みた）または「御田」（みた）と表記され、天皇の直轄領を意味する言葉であった。

三田村は明治中期まで目黒六か村の一つであったが、江戸時代は大名、旗本の別邸が多く、文化・文政の繁栄期でも戸数は十数戸に過ぎなかったという。閑静で景色の良いところと認識されていたらしい。

江戸時代の初期に、玉川上水を下北沢村から分水して三田用水が開かれた。この用水は代々木、渋谷、上目黒、中目黒、下目黒、三田、白金、大崎などの各村を通り、現在の五反田付近から目黒川に注いでいた。世田谷、麻布などの十四か村に給水され、農業の発展に寄与した。

明治に入り、この水を利用して日本麦酒（現サッポロビール）がビール工場を開設した。用水は暗渠化されて道路に代わっていった。昭和49年に廃止された。

明治以降も、三田にはビール工場くらいしかなかったが、平成6年の恵比寿ガーデンプレイスの開業で町の雰囲気は大きく変わった。

三田では二丁目にある茶屋坂を取り上げなければならない。江戸時代、茶屋坂は江戸から目黒に入る道の一つで、坂の上からは富士山を望むことができ、彦四郎という百姓が営む茶屋があった。

三代将軍家光は鷹狩りの折にこの茶屋をたびたび訪れ、彦四郎の人柄を好んで「爺、爺」と話しかけたことからこの茶屋は「爺々（じじ）が茶屋」と呼ばれるようになり、広重の浮世絵にも描かれた。

この茶屋をモデルにして作られた落語が「さんまは目黒にかぎる」の「目黒のさんま」である。



目黒の銭湯巡り

入間湯 細谷 清（昭和49年 商）

目黒区は東京23区の中でも銭湯の多さでは20番目前後でしょうか、少ないのですが住んだところが偶々銭湯に恵まれた所でしたので、温泉好きの私には予想外の儲けもんでした。

この入間湯は余り近過ぎるし地下水泉でもない事から、以前はそんなに通いませんでした、でも近くにあるのは本当に便利だと最近思う様になりました。サウナが付いていてそれで470円ですから本当にお得です。コロナ禍で控えていたのですが、先日一年ぶりでしょうか入ってきました。

入間湯は駅近くにあるわけでもなしアパートの多い住宅地の片隅に静かに構えているせいか、来る人は皆さん徒歩圏内の方が多いようで、停まっている自転車も少ないです。常連の方が多い様なので、ある意味安心な銭湯です。

男湯は、同時に30人が入れるこぢんまりとした所で、洗い場と奥右側にサウナ室、左側が浴槽で一般浴槽、ジェットバス2区画、そして48度位の熱湯の浴槽があります。他にカーテンで区切った水シャワー室と一般シャワー室が夫々一つ。サウナの後には水風呂の代わりに水シャワーで汗を流します。

その湯に入ったのは平日の夕方5時半頃でしたが、他人も少なく4、5人で、皆さん同年配の方が黙々と入っていました。彼方の女湯からは元気な話し声が聞こえて来て、それが銭湯らしい響きでした。

きれいに掃除の行き届いた洗い場で、体を洗い風呂の入り、たった一人のサウナに入り、水シャワーを浴び、髭剃りをしてジェットバスに入り、体を又洗って最後に、それまでに観た所では誰も入らなかった熱湯に入って体の芯まで温めて上りました。

僅か一分足らずで家に帰って一杯飲んで食事を軽くして後は朝まで眠る。銭湯のお陰でぐっすり眠れると言った方が正しいでしょう。

銭湯の壁の絵を見て、田園風景一杯の山里にあるごくありふれた湯治場で一風呂浴びてゆっくり休んだ気分、それでもこれは日常生活の一コマです。これを贅沢と呼ばずして何と言えましょうか。



会員ギャラリー

『嫌ったりしてごめん Sorry, I hated you.』

澁谷瑠璃



ようやく完成したと思って、次の日顔を覗いてみると、表情が変わっていた。まだ仕上がっていないかと思ひ手を加えて、今度こそはと思ってみても、またしばらくすると、少し顔が変わる。

そこで、ああなるほど、この子は生きているんだな、とわかる。

私の心が投影されているのか、それとも彼女自身の感情の現れなのか… 何を思っているのかは、絵の中の子に聞いてみないとわからない。

『彼岸花』

山内 宏 (昭和56年 教育)



コロナ感染が拡大する中、目黒稲門会で活動が開始されたオンライン茶話会 (Zoom) による情報交換の場が設定されました。9月の茶話会の中で金井幹事長より「そういえば彼岸花」が季節を迎えているのを見かけないという話題になり、ようやくた

どり着いた1枚です。自分としては、会心の1枚です。今年は、黄色の彼岸花も見かけました。初めての経験です。なお、大学時代は、写真部に属しておりました。商学部の地下でワイワイガヤガヤやりながら、白黒写真を現像していたころのあの頃が懐かしいです。

これからも、風景写真をメインに撮影活動を進めて行きたいと思います。

新入会員



小野 智史 (平成6年 法)

(目黒区下目黒在住)

早稲田を卒業して、気付けば、そここの年月が経っておりました。

大学時代の数々の出来事が懐かしく思い出されると共にあの素敵な瞬間をもう一度、との思いで入会させて頂きました。

早慶戦優勝の提灯行列に再度参加できれば、と思っております(笑)。

よろしくお願い致します。

お悔やみ申し上げます

島田 久家 (昭27商) 令和2年3月21日 (90歳)

横山 大 (昭31政経) 令和2年8月25日 (90歳)

石川 純子 (昭27商) 令和2年5月05日 (72歳)

※期間：令和元年11月1日～

令和2年10月31日 (敬称略)

事務局便り

本年4月より新型コロナ禍下に於ける会員同士の交流の機会を維持、拡大するためメールおよびオンライン茶話会を新たに設置しました。

メール茶話会は4月22日開設後、10月31日までに参加者30名、693件の投稿がありました。オンライン茶話会 (Zoom) は4月27日に第1回を開催、10月31日までに計29回開催、延べ229名が参加しています。

これらの茶話会での情報交換、議論を通じて会員相互の理解を深めて頂きたく、皆様の積極的なご参加をお願いします。詳しくは事務局までご連絡ください。

編集後記

会員の皆様から多くの原稿をお寄せいただき、本号も無事発行することができました。ありがとうございました。部会活動の休止が続き、次号も原稿不足です。引き続きよろしくお願い致します。

(猪名川 記)

目黒稲門会会報第89号

(2020年12月発行)

[追加]

本会報印刷投稿後に下記事項の連絡がありましたのでお詫びして追加します。

| | 追加 |
|------------------|--------------------------------|
| 8p、右欄、お悔やみ申し上げます | 河村 晋彦 (昭52 教育) 令和2年9月12日 (66歳) |
| | |

[正誤表]

本会報内に誤記がありました。お詫びして訂正します。

(2020/11/30)

| | 誤 | 正 |
|---------------|------|------|
| 4p、左欄、上から14行目 | 1979 | 1977 |
| | | |